

## 日本切手ナンバーワン物語

平 岩 道 夫(切手評論家)

日本一大きな切手とか、日本最初の切手など、本号では知っておいてソンはない“日本切手ナンバーワン”あれこれを紹介してみよう。

▼日本一大きな切手 1948年(昭和23年)11月29日に発行された“見返り美人”切手(5円)がそれ。同日からはじまった切手趣味週間にちなんで発行されたもので、浮世絵の大家・菱川師宣の作品がとりあげられた。

また翌年の11月1日に発行された“月に雁”(8円切手=安藤広重作)と同じく、寸法はタテ6.35センチ、ヨコ2.6センチ。

参考までに日本切手カタログによる評価は“見返り美人”未使用がなんと16,000円“月に雁”が27,000円もしているのだから驚き!

▼日本最初の切手 通称“48文”と呼ばれ、1871年(明治4年)3月1日(当時は太陰暦)、いまの暦では4月20日に発行された。

48文、100文、200文、500文の4種類があり、いずれも竜が描かれ図案のなかに額面文字が入った変わりダネ切手。

しかもこの切手には目打ちや裏のりがなく、さらに“郵便”とか“切手”“日本”といった文字も見られない。

ところが翌年には貨幣単位が変更され、額面文字が半銭、壹銭、貳銭、5銭となり、目打ち



と裏のりもつけられるようになった。

印刷は凹版で、しかも“エッチング法”という、原版の切手を1枚1枚、手で彫ったものだった。48

文切手から45番目までの切手が“手彫り切手”といわれているのはそのためだ。

ちなみに評価は、48文切手第1版縞紙の未使用が62,000円ナリ。

▼日本最初の記念切手 1894年(明治27年)3月9日に発行された“明治天皇銀婚式”記念切手2種。貳銭(評価は12,000円)と5銭(評価は15,000円)で、ともに図案は“鳳凰(ほうおう)と唐草模様”を描いたもの。

#### 新刊「切手おもしろ百科」紹介

サブタイトルに“集め方から楽しみ方まで”とあり、日本切手発行のエピソードから、こぼれ話、切手用語あれこれ集、実用ガイドまで、いたれりつくせり。日本一の切手博士で、日本最初の切手評論家としても知られる平岩道夫&雅代共著。郵送による申込みは「〒162 東京都新宿区納戸町34 けいせい出版・切手おもしろ百科係」あてどうぞ。けいせい出版の電話(03)267-4521。定価1,000円(送料250円)。